第２次小美玉市まるごと文化ホール計画（案）

はじめに

この第２次小美玉市まるごと文化ホール計画は、小美玉市公共ホール運営委員会より付託を受け、第２次小美玉市まるごと文化ホール計画策定プロジェクトチームにより策定されたものです。

21 世紀における日本の文化政策は、日本文化の創造と発展、より豊かで魅力のある社会創造、そして新しい経済的価値を育むことを政策課題として追究し、文化の力を地域の持続的な発展につなげることが必要とされています。また、文化政策の企画立案、実施にあたっても、より広く地域のニーズや民意を反映し、効率的かつ効果的な運営が求められています。

文化芸術は、人間が人間らしく生き、人びとと社会の活力を高める重要な役割を担っています。社会の特殊な一部分ではなく、新たな価値を生み出す社会資源の一つとしてとらえることが必要です。人間は、衣食住や経済活動のみによって生きられるのではなく、日々あらゆる文化活動を通して内面的な欲求を満たしています。心を躍動させる音楽との出会い、絵画や彫刻から受ける感銘、このようなことを誰しも経験しながら、精神的な喜びを得るとともに創造性を養っています。

文化政策は、文化芸術の振興や文化遺産の保存、継承に加えて、文化施設とまちづくりとの連携や歴史文化遺産を活用した交流人口の拡大など、多岐にわたる実践的課題を対象として行われる必要があります。そうすることで、文化資源を地域活性化やブランディング、ひいては地域の持続的発展につなげることができると考えます。

いつの時代も子どもは社会の宝です。社会環境や価値観次第で伸びる特性が変わり個性が育まれます。子どもの健やかな成長は社会に活力を与えます。幼少期から良質の文化芸術に触れる機会をつくることで、好循環で若い世代の成長を促し、中長期的な住民力の育成につなげられます。

また、地域コミュニティとそこに住む人の日常生活に密着し、公共政策学や公共経済学に理論的基礎をおきつつ、マネージメント、マーケティング、オペレーションズ・リサーチなど他分野での研究成果を参照しながら科学的分析をおこない、定量的評価法も応用しながら実務関係者、団体との密接な連携の下、具体的かつ実証的に文化政策の課題を検討する必要があります。

小美玉市では、市民一人ひとりが豊かでゆとりある文化的な生活を享受できる社会を目指し、誰もが気軽に真の文化芸術に触れることができ、さらには、市民が主体的に文化活動に参加・参画できる環境の整備充実を図ることを基本方針に、文化振興を図っています。これまで第１次小美玉市まるごと文化ホール計画（2012 年～2021 年）のもとに推進した結果

①住民主体の文化活動を支える拠点づくり
②生活に関わる社会活動を育てる土壌づくり
③市職員のプロデュース・コーディネート力を育成する拠点づくり
④IT 技術を活用しながらアウトリーチ型の文化活動を進める拠点づくり

などの特徴的活動が生まれ、住民が主役となって事業を推進するかたちが根付き始めました。

第２次小美玉市まるごと文化ホール計画（2022 年～2031 年）は、今後 10 年間を意識しながら「３館の個性」を捉え、住民とともに歩む持続可能な豊かな文化のまちづくりを目指して、住民をはじめさまざまな文化活動に関わる人びとで構成した「第２次小美玉市まるごと文化ホール計画策定プロジェクトチーム」を 2020 年 10 月に結成し、11 回の会議を重ね、この計画をつくりました。

新たな計画においても、引き続き「住民一人ひとりが主役」となって力強く企画運営し、あらゆる関係者の支えで発展してゆく姿を構築できるよう、「根を張ってこそ花が咲く」の理念のもと、戦略・方策・活動計画を策定しています。

第２次小美玉市まるごと文化ホール計画は、これからの小美玉市文化振興の礎かつ羅針盤となる重要な計画です。

第２次小美玉市まるごと文化ホール計画

ピラミッド・ツリー構造図

第１次まるごと文化ホール計画が育ててきた特性

①住民主体の文化活動を支える拠点づくり
②生活に関わる社会活動を育てる土壌づくり
③市職員のプロデュース・コーディネート力を育成する拠点づくり
④IT 技術を活用しながら、アウトリーチ型の文化活動を進める拠点づくり

理念

ミッション

根を張ってこそ花が咲く　－サードプレイスとしての魅力的なホール－

- 根を張る
- 花が咲く

ビジョン

地域のきずなをホールが結ぶ　（誰も取り残さない／ＱＯＬの向上）

小美玉の魅力をホールが発信する　（市や地域のブランド力向上に役割を果たす）

３館の個　性

個性豊かな３つのホールが共創する

- アピオス「交流と祭り」
- みの～れ「未来へつなぐ風・あなたとつくる森」
- コスモス「悠久の風土を活かす」

戦略

	A　集める －誘引力－	B　つなげる －ネットワーク力－	C　広げる －展開力－	D　深める －文化醸成力－
広　報	知ってもらう広報	呼びかける広報	新しい広報	文化を根付かせる広報

方策

A－① 誰もが参加しやすい環境をつくる	A－② 明確なメッセージを伝える	B－① 時間軸をつなぐ	B－② 地域軸をつなぐ	C－① 新しい時代のニーズを取り込む	C－② イノベーションを起こす	D－① 自分らしさ、小美玉らしさを創る	D－② 魅力的なコンテンツをつくる

活動計画

	A－①	A－②	B－①	B－②	C－①	C－②	D－①	D－②
アピオス	リモートとリアルが共存する会議を標準にする	最新のデジタルツール（SNS・動画等）を先取りする 専門的な広報戦略を学ぶ	企画力・広報力を向上させるため、学びと実践の場をつくる 既存の事業に新たな人材が参加・参画する仕組みをつくる	全国の各種組織との交流の機会をつくる	学校・大学と戦略的に連携する	専門分野を学ぶ「アピオスクール」の開校	一人ひとりを活かし、小美玉らしさを生み出せるプロデューサーを育成する	制作力のあるホールになるため、積極的に舞台作品をつくる
みの～れ	すべての人に開かれた憩いの場の創出	世代にマッチした多様な手法を用いた情報提供	体験と対話を通して多世代交流をする企画事業の展開	地域の人びとのくらしをつなぐ企画事業の展開	住民自ら企画を持ち込みチャレンジできるプレゼンテーション企画事業の展開	みの～れで培ったノウハウを市内全体に展開する	対話と共創を通じて、感動を分かち合い個性を育む	蓄積してきたノウハウを生かした魅力あるコンテンツの充実
コスモス	公民館・図書館・史料館とも連携した気軽に立ち寄れる環境の創出	地域の特性を生かした情報発信	多世代交流や日常的な学校連携を意識した事業の展開	地域の歴史や霞ケ浦を生かした事業の展開	誰もがチャレンジできる企画事業の開催	地域資源を活かす全国の先進事例を学び実践する機会をつくる	地域の魅力を活かしシビックプライドを育む	アーティストや専門家のプロデュースによる住民参画企画

用語説明

- **サードプレイス：**　家庭や職場以外の、とびきり居心地のよい場所。目的別にマイプレイス型と交流型に大別でき、ホールは交流型：さまざまな人々が気軽に交流できることを目的に設計された場所に該当する。
- **ＱＯＬ（クオリティ・オブ・ライフ）：**　ひとりひとりの人生の内容の質や、社会的にみた生活の質のことを指し、ある人がどれだけ人間らしい生活や自分らしい生活を送り、人生に幸福を見い出しているかを尺度としてとらえる概念。
- **イノベーション：**　ものごとの新しい①機軸（方法）、②結合、③切り口、④捉え方、⑤活用法を創り出す行為。従来のもの・仕組みなどに対して全く新しい技術や考え方を取り入れて新たな価値を生み出し、社会的に大きな変化を起こすことを指す。
- **シビックプライド：**地域への愛着に加え、「地域をより良い場所にするために自分自身が関わっている」「自分がこの地域の未来をつくっている」という当事者意識を伴う自負心のこと。

計画書目次

はじめに ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1

第２次まるごと文化ホール計画　ピラミッド・ツリー構造図

１.計画の全体構造 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3

理念

ミッション

ビジョン

３館の個性

２．戦略／方策／活動計画 ・・・・・・・・・・・・・・・ 5

小美玉市の目指す文化のサイクル

戦略Ａ　集める

戦略Ｂ　つなげる

戦略Ｃ　広げる

戦略Ｄ　深める

戦略別広報

事例紹介

将来像 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 19

資料編 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 20

小美玉市公共ホール運営委員会

第２次まるごと文化ホール計画策定プロジェクトチーム

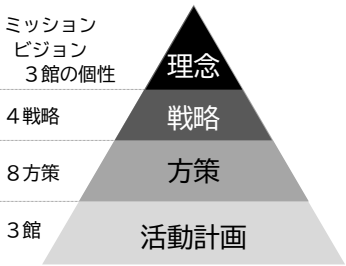
計画策定経緯（会議開催状況）

第２次まるごと文化ホール計画策定プロジェクトチームメンバーコメント
（※製本時追加掲載予定）

資料集　（※製本時追加掲載予定）

１．計画の全体構造

・理念　　ミッション：ホールの役割・存在意義
　　ビジョン：目標とする未来像
・戦略　　理念を達成するための手法
・方策　　戦略に基づく作戦・行動指針
・活動計画　３館別で方策を実行するためのプラン



理念

ミッション　ホールが中長期で果たすべき役割（存在意義）

根を張ってこそ花が咲く　–サードプレイスとしての魅力的なホール–

根を張ってこそ花が咲く

・「根を張る」は基盤づくり、「花が咲く」は魅力づくり。
・第１次計画でのビジョンを、第２次計画でも継承。
・切り花のように出来合いの文化を生けかえるのではなく、根のある木花が毎年咲かせる生きた美しい花のような文化に囲まれて暮らしたい。人の根を張れば、まちの幹が伸び、文化の花が咲く。

サードプレイスとしての魅力的なホール

・人びとが豊かな日常生活を送るためには、家庭、学校・職場のほかに、趣味趣向などで結ばれるもう一つの「場」：サードプレイス（居心地の良い場所）が必要。
・３つの文化ホール（アピオス・みの～れ・コスモス）は住民の活動の場として定着しており、この活動をさらに展開することで、地域の結節点として、小美玉市の魅力を発信する場として役割を果たすことができる。

ビジョン　第２次計画が目指すホールの将来像・未来像

１．地域のきずなをホールが結ぶ（誰も取り残さない／ＱＯＬの向上）

・サードプレイスとしてのホールの存在価値を高めることで、地域のセーフティネットの１つとして機能し孤立を防ぐことができる。
・従来からホールに活動基盤がある住民を含め、より多くの人びとが交流し、日常生活の豊かさ・満足度（ＱＯＬ：クオリティ・オブ・ライフ）を高めることができる。

２．小美玉の魅力をホールが発信する（市や地域のブランド力向上に役割を果たす）

・「住民主役・行政支援」の考え方のもと、ホールで企画・イベントを創出することで、担い手としての住民・職員の能力が高まり、より幅広く活動できるようになる。
・時代の変化をとらえ、新たな企画を創り出すチャレンジを続けることで、小美玉の認知度とブランド価値を高めることができる。

３．個性豊かな３つのホールが共創する

・３つのホールは、活動拠点とする住民によってそれぞれ個性が定着している。
・３つのホールの住民が相互に交流することで、それぞれのホールがもつ価値を明確にでき、ホールへの愛着を高めることができる。
・ホールの価値が明確になることで、３つのホールが相互に連携するだけでなく市内外を超えての文化連携ができ、より豊かな生活を送ることができる。

アピオス・みの～れ・コスモス「３館の個性」

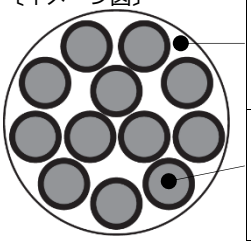
３館の個　性	アピオス **交流と祭り**	みの～れ **未来へつなぐ風・あなたとつくる森**	コスモス **悠久の風土を活かす**
３館の特　長	・歌謡曲・演歌等の鑑賞事業を行ってきた。 ・住民参加型企画が定着。住民プロデュース企画も生まれている。 ・アピオスぱるずを中心にボランティア参加の仕組みを整えている。 ・デジタル技術を使った若い世代向けの取り組みも実施している。 ・商店街や空の交流エリアが近い。	・住民が中心となる事業を多く実施している。 ・館の稼働率が全国的にも高く、いつも利用者がいるイメージ。 ・常設展示など、いつ来ても何かやっている。 ・芝生広場と一体で、緑が多いステキなロケーション。 ・住民ボランティア「みの～れ支援隊」が活躍している。	・自然の豊かさを活かした多様な体験講座ができる。 ・図書館、史料館、しみじみの家、民家園がありコラボ企画ができる。 ・自主事業や貸館事業にとって、劇場の規模が丁度よい。 ・生涯学習＝学びの場として、多岐にわたる活用ができる。 ・霞ケ浦を望むロケーションがよい。 ・サイクリングロードと連携ができる。
個　性へ　の思　い	○なぜ「交流」？ ・たくさんの住民が集い、創造する拠点となっている。 ・茨城空港から全国、海外へもつながることができる。 ・デジタル技術を使った交流により、遠隔地からの参加・交流も期待できる。 ○なぜ「祭り」？ ・アピオスで育む文化はこれからも「祭り型」（祭り型：水平、巻き込み、継続性、根を張る）でありたい。 ・長い期間の準備でハレの場をつくっていくのは小川祇園祭とも共通する。関係人口創出の場としたい。 ・日本全国の祭りの課題である「①担い手不足、②マンネリ化、③資金不足、④地域外での認知度不足」を未来のアピオスの課題と認識し、変化を先取りしていく。	○なぜ「未来へつなぐ風」？ ・10 年で培ってきたノウハウや発信してきたプロジェクトは、全国でも引けをとらない。この流れや想いを未来へつないでいきたい。 ・さらには、心地よく自然に流れる風のように、多くのひとに波及させていきたい。 ○なぜ「あなたとつくる森」？ ・みの～れの強みは住民参画。多くの住民と関わりながら、さまざまなプロジェクトを発信してきた。 ・みの～れは、「森に囲まれた劇場」として親しまれている。 ・今後も、「あなた（住民）」と「さまざまなプロジェクト（森）」を「つくって（創って）」いきたい。	○なぜ 「悠久の風土を活かす」？ ・コスモス周辺には、旧石器時代から続く歴史があること。 ・茨城県指定有形文化財「民家園（旧小松家住宅）」があること。 ・移住者が憧れる里山の風景があること。 ・コスモスから見る霞ケ浦の眺望がすばらしいこと。 ・コスモスで活動する「人」、あるいは来館する「人」を巻き込んだ取り組みとしていきたい。 ・体験の場・学びの場を通して、地域や風土への愛着を深めていってもらえるような存在でありたい。

２．戦略／方策／活動計画

戦略（Ａ～Ｄ）ごとに方策を２つずつ、さらに方策ごとに３館の活動計画を定めます。

戦略Ａ　集める　-誘引力-　［戦略別広報］知ってもらう広報

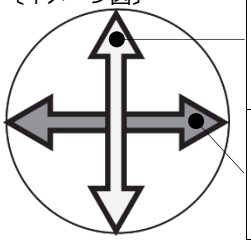
〔イメージ図〕



方策Ａ-①　誰もが参加しやすい環境をつくる 〔外側の円〕　広く全体的に集める	**活動計画** アピオス みの～れ コスモス
方策Ａ-②　明確なメッセージを伝える 〔内側の円〕　特定のターゲットを集める	**活動計画** アピオス みの～れ コスモス

戦略Ｂ　つなげる　-ネットワーク力-　［戦略別広報］呼びかける広報

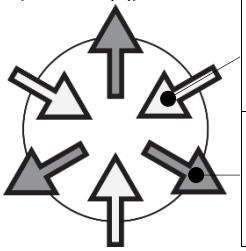
〔イメージ図〕



方策Ｂ-①　時間軸をつなぐ 〔たて矢印〕　過去・現在・未来の交流	**活動計画** アピオス みの～れ コスモス
方策Ｂ-②　地域軸をつなぐ 〔よこ矢印〕　同じ時間での交流	**活動計画** アピオス みの～れ コスモス

戦略Ｃ　広げる　-展開力-　［戦略別広報］新しい広報

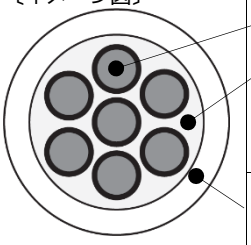
〔イメージ図〕



方策Ｃ-①　新しい時代のニーズを取り込む 〔内向き矢印〕　社会のニーズをとらえる	**活動計画** アピオス みの～れ コスモス
方策Ｃ-②　イノベーションを起こす 〔外向き矢印〕　新しいチャレンジ	**活動計画** アピオス みの～れ コスモス

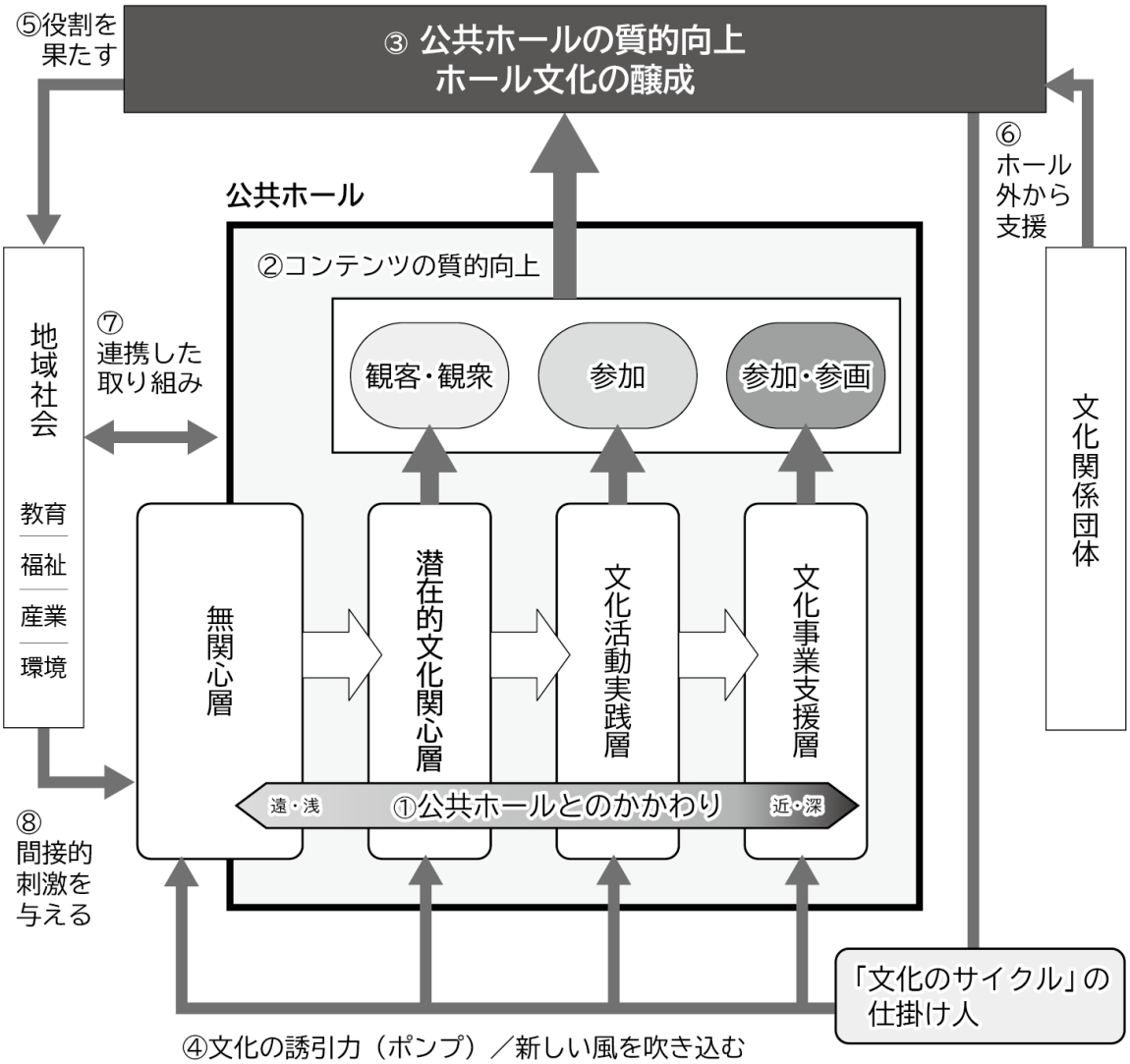
戦略Ｄ　深める　-文化醸成力-　［戦略別広報］文化を根付かせる広報

〔イメージ図〕



方策Ｄ-①　自分らしさ、小美玉らしさを創る 〔内側の円（内周）〕　自分らしさ 〔内側の円（外周）〕　小美玉らしさ 社会的立場を気にしない 気軽な交流環境 高い文化性を醸成し昇華させる	**活動計画** アピオス みの～れ コスモス
方策Ｄ-②　魅力的なコンテンツをつくる 〔外側の円〕　作品・人材づくり	**活動計画** アピオス みの～れ コスモス

小美玉市の目指す文化のサイクル



①公共ホールとのかかわり度合いが高まることで（無関心層→潜在的文化関心層→文化活動実践層→文化事業支援層）
②かかわり度合い（観客・観衆、参加、参画）に応じたコンテンツの質的向上が図られ
③公共ホールそのものの質的向上や、ホール文化の醸成につながる。
④「文化のサイクル」の仕掛け人が地域住民へ働きかけるとともに
⑤地域社会において「きずなを結ぶ」「魅力を発信する」役割を果たすことで
　地域社会から「サードプレイス」としてのホールの信頼を得る。
⑥ホールの外から文化関係団体の支援を受けつつ、
⑦地域社会とホールが相互に連携協力することで、
⑧地域社会から住民に対してもホールの社会的意義を間接的に知らせることにつながる。

①公共ホールとのかかわり度合いがさらに高まり、
②コンテンツのさらなる質的向上と、③公共ホールの質的向上とホール文化の醸成に循環する。

戦略Ａ　集める　-誘引力-　［戦略別広報］知ってもらう広報

方策Ａ-①　誰もが参加しやすい環境をつくる

方策のキーワード

- 気軽に立ち寄れる交流の場
- 文化芸術への関心や住む場所に左右されない
- 人や事業（プロジェクト）を相互につなぐ
- 社会環境の変化を先取りして対応する
- ヒト・モノ・カネ・コトをひき寄せる

アピオス活動計画

リモートとリアルが共存する会議を標準にする

どこに住んでいても、どんな社会情勢になっても、会議に参加できることが当たり前になるよう、プロジェクトに参画する人を対象としてのリモート研修を年度初めに行います。

みの～れ活動計画

すべての人に開かれた憩いの場の創出

子ども・高齢者・障がい者などあらゆる人が、気軽にみの～れの中に足を運び、中を見て回ることのできる仕組みをつくり、「いつも何か楽しい催しが行われている」と思われる交流の場となる環境をつくります。

コスモス活動計画

公民館・図書館・史料館とも連携した気軽に立ち寄れる環境の創出

子どもから高齢者まで多様な世代の参加参画や交流が期待できるコスモスの特性を生かして、公民館、図書館、史料館、文化ホールの事業や利用者を相互につなぐ運営を行います。

方策Ａ-②　明確なメッセージを伝える

方策のキーワード

- 地域に住むさまざまな人びとをターゲットにする
  （住民個人、住民グループ、企業、学校、官公庁など）
- 時代・世代・対象に合わせた広報戦略を考える
- 住民主役・行政支援のホールの取り組みを PR
- 「小美玉市の目指す文化のサイクル」をみんなで意識する
- 知る、興味をもつ、参加する企画事業を展開する

アピオス活動計画

①最新のデジタルツール（SNS・動画等）を先取りする

最先端のデジタルツールに挑戦し、広報の発信力とクオリティを高め、IT リテラシーの高い人が集まるアピオスというブランドを訴求します。

②専門的な広報戦略を学ぶ

専門的な広報戦略を学ぶ機会をつくり、各プロジェクトで取り組みます。

みの～れ活動計画

世代にマッチした多様な手法を用いた情報提供

SNS・紙などの媒体とターゲットを意識し、その時代に合った広報戦略を学ぶとともに、各層や世代にマッチした多様な手法を用いて広報を発信します。

コスモス活動計画

地域の特性を生かした情報発信

市外・県外からのサイクリングロード利用者や、ダイヤモンド筑波見学者等の近隣に来た人をターゲットに、コスモスを知ってもらう機会をつくります。またコスモスの利用者や事業参加者に、情報発信をしてもらえるような仕掛けをつくります。

戦略Ｂ　つなげる　-ネットワーク力-　［戦略別広報］呼びかける広報

方策Ｂ-①　時間軸をつなぐ

方策のキーワード

- 世代を越えた交流機会をつくる
- 地域の文化資産を発掘し価値化する
- 企画力と広報デザイン力を向上し、新たな担い手を呼び込む
- 体験と対話、実践のある事業を展開する
- 中長期的にホールにかかわれるしくみをつくる

アピオス活動計画

①企画力・広報力を向上させるため、学びと実践の場をつくる

若い世代が参加・参画したくなるホールになるため、企画力と広報デザイン力を向上させる事業を実施します。

②既存の事業に新たな人材が参加・参画する仕組みをつくる

若い世代が参加・参画する機会を増やすため、既存事業に新規参加・参画者枠を設けるなど仕組みをつくります。

みの～れ活動計画

体験と対話を通して多世代交流をする企画事業の展開

「体験教室」「親子教室」など、昔の伝統文化や、遊びの楽しさ・面白さを若い世代に伝えながら、多世代の交流が生まれる企画・事業を考え実施します。これら事業の展開によって、ホールを中心とした自然な世代間交流の機会をつくります。

コスモス活動計画

多世代交流や日常的な学校連携を意識した事業の展開

部活動など学校の活動と連携し、子どもたちがコスモスで学んで実践する場をつくります。地域の大人たちと子どもたちのつながりをつくり、子どもたちが成長して地域を支えてもらえるように取り組みます。

方策Ｂ-②　地域軸をつなぐ

方策のキーワード

- 市内外で小美玉文化の価値を共有する仲間を増やす
  （住民、企業、官公庁、アーティストなど）
- ３館のそれぞれの個性を尊重しながら活動の輪を広げる
- 地域の生活や歴史の中にある文化活動を後押し
- 多様な人びとの活動をホールでつなぐ
- 全国の先進ホールや文化拠点と交流連携する

アピオス活動計画

全国の各種組織との交流の機会をつくる

ホールボランティア団体ほか、アピオスに参加・参画する人たちの視野とネットワークが広がるよう、全国の先進団体・事例とのオンライン交流会、セミナーを計画的に開催します。

みの～れ活動計画

地域の人びとのくらしをつなぐ企画事業の展開

みの～れに関わっているアーティストとのワークショップを企画し、住民とアーティストがお互いに身近な存在となるよう取り組みます。また、行政区や企業などのイベントをバックアップできる仕組みをつくります。

コスモス活動計画

地域の歴史や霞ケ浦を生かした事業の展開

霞ケ浦や周辺の史跡と連携・活用しながら、コスモスが地域の活動拠点となるよう取り組みます。またコスモスを中心に、活動する人たちをつなげていきます。

戦略Ｃ　広げる-　展開力-　［戦略別広報］新しい広報

方策Ｃ-①　新しい時代の環境に取り組む

方策のキーワード

- デジタル技術の進展と社会の変化にアンテナを立てる
- 他団体と積極的に連携し情報とニーズをとらえる
- ホールに必要なコンテンツを探りマッチングさせる
- チャレンジを応援できるしくみをつくる
- 既存の事業に新しいモノ・コトを取り入れる工夫をする

アピオス活動計画

学校・大学と戦略的に連携する

若い世代の参加・参画数を増やすために、学校・大学と戦略的に連携し、学生が参加・参画しやすい環境づくりを行います。

みの～れ活動計画

**住民自ら企画を持ち込みチャレンジできる
プレゼンテーション企画事業の展開**

若い世代をはじめとする住民が自ら企画を持ち込みプレゼンできる体制をつくります。そしてチェック・応援・協力体制のもとで、期間を設けて自分のやりたいこと・チャレンジできる仕組みをつくります。

コスモス活動計画

誰もがチャレンジできる企画事業の開催

新しい取り組みに対する予算を設け、新しいチャレンジ企画を開催します。あわせて定期的に企画をチェックし見直すことで、人や事業が循環する環境をつくります。

方策C-②　イノベーションを起こす

方策のキーワード

- 社会のニーズに基づく新しい文化活動にチャレンジする
- 専門知識や先進事例を学び応用する
- 企画の推進役となるリーダー・グループをつくる
- ホールにとらわれない新しい企画を展開する

アピオス活動計画

専門分野を学ぶ「アピオスクール」の開校

少人数でも意欲の高い人を対象にした「アピオスクール」を立ち上げ、プロデューサーなどを育成します。

みの～れ活動計画

みの～れで培ったノウハウを市内全体に展開する

みの～れで培ったノウハウをホールの中だけでなく、遊休施設を利活用して企画をすることで、新たな切り口の文化活動を実践します。

コスモス活動計画

地域資源を活かす全国の先進事例を学び実践する機会をつくる

情報発信の方法や事業が固定化しないように、勉強会等を開催し、地域資源等を活かした全国の事業や運営方法等の先進事例を知り、学び、実践する機会をつくります。

戦略D　深める　-文化醸成力-　［戦略別広報］文化を根付かせる広報

方策D-①　自分らしさ、小美玉らしさを創る

方策のキーワード

- 親しみやすい、話しやすい、対話の文化による、世代を越えた共存の場
- ホールは居心地のよい活動拠点
- 交流・対話・共創による自己実現とスキルアップ
- 一人ひとりが社会の一役を担える実感がもてる
- サードプレイスによる新たな発見
- 文化活動を通して、自分の可能性を見つけ、互いに磨き合い、光があたる

アピオス活動計画

一人ひとりを活かし、小美玉らしさを生み出せる
プロデューサーを育成する

「一人ひとりが自己実現を感じられる場」をつくることができるプロデューサーを育て、想いを社会に発する場としてのアピオスをつくります。

みの～れ活動計画

対話と共創を通じて、感動を分かち合い個性を育む

みの～れに関わる人が、部門の垣根を超えて、より広く、気軽に交流し対話できるしくみをつくります。また展示と公演のコラボなど、部門の交流を基礎にした新しい企画に取り組みます。

コスモス活動計画

地域の魅力を活かしシビックプライドを育む

コスモスが魅力発信の拠点となるために、人材を育みながら、コスモスを中心に地域や活動をつなげるしくみをつくります。また一人ひとりがサポートを受けつつ自分らしさを発揮できる環境をつくります。

方策D-②　魅力的なコンテンツをつくる

方策のキーワード

- ホール変革の歴史で蓄積された知的財産を活用する
- プロのアーティスト、クリエイターと共創する
- 企画・コンテンツのクオリティを向上させる
- 個性的で良質な企画を創り地域に還元する
- 次世代の参加・参画意欲を生み出す

アピオス活動計画

制作力のあるホールになるため、積極的に舞台作品をつくる

アーティストやクリエイターと共創できる制作力を持つホールになるため、積極的に舞台作品づくりをすすめ、住民・職員ともに制作経験を重ねるとともに、ホールへの愛着や、参加・参画者の達成感を深めていきます。

みの～れ活動計画

蓄積してきたノウハウを生かした魅力あるコンテンツの充実

既存事業を定期的かつ客観的にチェックし見直す体制をつくります。さらにいままで取り組んできた企画を基礎にして、企画力やアイディアを学び深めることで、新しい企画に展開します。

コスモス活動計画

アーティストや専門家のプロデュースによる住民参画企画

地域由来のコンテンツを生かしたプロジェクト企画等を専門家との共創で生み出すことで、地域の魅力に気づき、経験を蓄積できる機会をつくります。

戦略別広報

広報のキーワード

ホールで活動する一人ひとりが広報の担い手

戦略Ａ　集める
知ってもらう広報

- 知り合いへの口コミで共感を呼ぶ
- 人に薦めたい、一緒にやりたいがキーワード
- 相手に合わせて紙媒体も効果的に
- みんなで SNS を継続的に活用する
- 広告やプレスリリース（パブリシティ）を組み合わせて

戦略Ｂ　つなげる
呼びかける広報

- 企業・団体・学校のボランティア団体をリサーチ＆声かけ
- 企画書をつくって、ホール事業に参加参画 OK とアピール
- 住民・企業・団体とホールの信頼関係を築く

戦略Ｃ　広げる
新しい広報

- 新しい情報媒体や広報の手法をリサーチ
- 動画で視覚的に訴える
- 企画によってはデバイスやアプリを活用
- 報道やインフルエンサーから第三者視点で PR
- 特定のターゲットに、ホールの機能を活かしてアプローチ

戦略Ｄ　深める
文化を根付かせる広報

- 活動で得られた達成感・魅力を伝える
- 自分たちの活動を広く知らせて、誇りやホールへの愛着を
- 一人ひとりの活動を通して、ホールの価値を高める
- 文化ホールでの活動が小美玉市の価値向上につながる

事例紹介

戦略Ａ　集める

ホール展示企画

みの～れ「陽だまり横丁」「ときめき美の小径」／アピオス「陽だまり広場」「遊歩道」

「いつ来ても何かやっている、ぶらっと寄って楽しめる」をコンセプトに、ホワイエ展示スペースまたは館内通路を活用した展示を企画。実行委員会のもと、①いつ来ても何かやっているホールとなるよう日常的に展示を行う、②企画展やワークショップを開催し、にぎわいを作り出すことをミッションとして、半月～２か月の一定期間で展示を実施しています。みの～れ「陽だまり横丁」「ときめき美の小径」を起点とした文化ホールでの展示企画は、アピオスにも「陽だまり広場」「遊歩道」として根付き、さらにコスモスでも立ち上げを計画中。創る側も見る側も楽しめる、住民の文化活動の場となっています。

「地域とともにある施設になるためには」小美玉文化の広報事例が紹介

おみた Magazine、みの～れ Life のすすめ、art minole など、住民参画による文化ホールでの広報活動が「平成 28 年度 劇場・音楽堂等広報＆コミュニケーションハンドブック」（文化庁委託事業）において紹介されました。ハンドブックでは住民参画の広報体制のポイントとして、1.職員の役割（職員が現場で育成されているからこそ、住民と一緒に汗をかくことができる）、2.住民の活動（住民目線での広報が、住民を育て、ホールのファンを生む）、3.若年層の取り込み（学校の職場体験を住民参画の機会として組み込む）の３つを掲げており、「住民自体が企画し、実施し、そして広報している活動であるからこそ、全くの無関心層を巻き込むだけの強い力をもつことができる」、「地域全体をホールの味方にできる好例」と評価を受けています。

コスモス夏休み親子体験

コスモスでは夏休みに親子体験事業を実施しています。その１つが公民館事業として実施する「夏休み体験講座」。市内の小学生とその保護者を対象に、毎年さまざまなジャンルの講師を１日に集めて実施するもので、2021 年は「和太鼓」「ヒップホップダンス」「まがたま作り」「マジック」の４講座が開催されました。子どもたちは講師の実演を見て、教わりながら実際に体験。初めて太鼓やダンスに触れる子も多い中で「わかりやすい」「楽しい」の声が多く寄せられました。もう１つが図書館事業として実施する「折り紙教室」。こちらは図書館職員を講師に、幼児も参加 OK。親子で楽しめて、子どもたちが学び興味をもつ機会となっています。

戦略Ｂ　つなげる

みの～れマタニティ・コンサート

みの～れマタニティ・コンサートは、妊娠という特別な期間に、妊婦さんに心身ともにリラックスする時間を提供したいという思いから生まれた、みの～れ開館当初から続く企画の１つです。公演は妊婦さんとその家族・友人を対象にしてのクラシック＋朗読で、これまでに来場した妊婦さんは 500 人を超えます。そんなマタニティ・コンサートの実行委員会は、子育て中のお母さんを中心に運営されていますが、中学生も実行委員として参加しており、ホールでしか得られない経験ができる機会となっています。お客様も公演スタッフも、家族を中心に幅広い世代の人びとがつながって、ともに成長していく。みの～れを象徴するコンサートです。

ホールの公演・イベントと企業協賛

みの～れ住民劇団「演劇ファミリーMyu」の公演チラシに掲載される広告は、出演者・スタッフが地元企業・商店に支援を依頼しているものです。ほかにも、企業の協賛品の提供（超みの～れフェスティバル、みの～れマタニティ・コンサートなど）、公演でお菓子や軽食の販売コーナーを設けてもらう（光と風のステージ CUE、ここからプレミアム劇場など）といった形があり、その交渉の多くは実行委員が担います。協賛を通して、地域の皆さんがホールの活動を知り応援してもらう機会となっています。

コスモスプロジェクト 親子で土器づくり体験

ホール・公民館・図書館・史料館を有する複合施設のコスモス。周辺には民家園（旧小松家住宅）・しみじみの家があり、幅広い活動ができる生涯学習の拠点です。この複合施設のメリットを活かし、コスモスプロジェクトで企画したのが「親子で土器づくり体験」。民家園を会場に、講師の指導のもと土鈴に土笛、縄文土器をつくります。参加者が粘土から形をつくり、自分たちでくべた薪で野焼きして完成。史料館で本物の古代の土器を鑑賞する時間もあわせて設けることで、土器を通して豊かな縄文時代の暮らしぶりを親子で学び、思いをはせる機会となりました。

戦略Ｃ　広げる

小美玉さくらフェスティバル

小美玉市商工会とさくらフェスみの～れ実行委員会が合同で開催する、春の一大イベント「小美玉さくらフェスティバル」。若い世代がみの～れに多く集まり、森のホール、風のホール、光のホワイエ、風の広場、野外と部門に分かれて１日限りの「大人の学園祭」を創出します。制作期間は約半年、実行委員会でテーマを決め、各部門でアイディアを出し合い企画を創り上げていきます。実行委員長をはじめ、毎年新しい人材がやって来ては入れ替わるのがさくらフェスの大きな特徴。若い世代がアイディアと行動力で活躍するイベントです。

アピオスｅスポーツイベント

スポーツ＝運動・体育のイメージが強い日本ではまだなじみが薄い「ｅスポーツ」。2019 年秋の茨城国体では、文化プログラムとして全国初といわれる都道府県対抗イベントが開催されました。このｅスポーツを「アピオスのホールでできないか？」と、使用タイトルや舞台演出・会場運営を、実行委員会で一から考え開催したのがアピオスｅスポーツイベントです。時代の最先端を視野に、世代や男女の差を超えて楽しめるイベントをつくることで、①地域住民のｅスポーツの認知度向上、②ｅスポーツを核とする小美玉市のまちづくり、③アピオス・小美玉の全国的なＰＲ、を目標にしています。

「見つける・みがく・光を当てる」芸術展プロジェクト

2018 年、15 回目でファイナルを迎えたみの～れ芸術展。これにかわる新企画を考えようと、2019 年に立ち上がったのが「芸術企画検討会議」。芸術展の実行委員有志に新たなメンバーを加え、「美術企画」のコンセプトを守りつつ、「継続性・発展性」「小美玉・みの～れでの実施に価値がある」「住民参加型」「ターゲットは親子連れ」といった企画で大切にしたいポイントを固めていきました。企画名には「ダイヤモンドシティ・プロジェクト」のキーワードを参考に、ライトアップ（見せ方）だけでなく、小美玉のいいところ、自慢したいところに「光を当てる」という思いが込められています。第１回は最先端の「プロジェクションマッピング」の技術を用いて、小美玉の「たまご」に光を当てること。みの～れの新しい芸術展がスタートします。

戦略Ｄ　深める

第１回全国ヨーグルトサミット in 小美玉

2018 年 10 月に小美玉市で開催された「第 1 回全国ヨーグルトサミット」。全国 108 種類のご当地ヨーグルトの「総選挙」や物産展、ヨーグルトを使った美容・健康イベント、講演会・ビジネスサミット、演劇ファミリーMyu のヨーグルトミュージカルや Jolly Forest Jazz Orchestra、小川・みのり・玉里創作太鼓の演奏ほかステージイベントなどが催され、2 日間で約 39,000 人が来場しました。サミットでは酪農協、ヨーグルト工場、農業青年クラブ、商工会、観光協会、青年会議所、子育てサークル、クリエイターチーム、市役所といった市内外の多数の企業・団体が協力連携するだけでなく、文化ホール発の多くの人材（住民・職員）が企画・運営にかかわり、文化芸術の現場で育まれた「住民と行政の共創」が小美玉全体へ広がる事例となりました。

演劇ファミリーMyu ミュージカル

みの～れの住民劇団である演劇ファミリーMyu は、小学 1 年生から入団でき、70 代までの 100 名を超えるメンバーで活動しています。家族のような温かさと結束力で、公演では脚本・演出・作曲・振付などを Myu ファミリーが行い、それを支える照明・音響・美術などの裏方スタッフが充実しているのが特徴。オリジナル作品づくりで培った人材と経験を生かし、オリジナルワークショップも考案。毎年新規加入希望者が体験し、安心して入団する流れができています。Myu で育った人材が、他の劇場や団体で創作・客演したり、他機関の情報誌やプロモーションにも力を発揮したりするなど、社会的な好影響をもたらす人材育成機関としても機能しています。近年は地域のクリエイターとの共創にも積極的で、プロボノ実践の場として全国の先進事例となっています。

おやこ DE ジャズ

「まほうのトンネルのさきは、ムシたちのせかい」。茨城県内の実演家と舞台人、ボランティア、館スタッフが創り上げる、ジャズピアノと演劇を組み合わせたオリジナル公演作品。制作期間は約半年で、毎年新しく脚本、曲を作り、公演に向けた稽古を行います。アピオスでは大ホールの舞台上に客席・スクリーン・照明音響を仕込み、装飾等で「アピオスの森」を創り出し、演者と演奏を近い距離で楽しむことができます。おもに未就学のお子さんとお父さん・お母さんを対象に、０歳児から入場できるこの公演は、毎年新しい内容となるため、シアターデビューの赤ちゃんだけでなく、リピーターが多いのが大きな特徴です。アピオスを中心に 10 年以上開催され、２日間で 1,000 人近い来場者が訪れる人気公演となっています。

将来像

コーディネーターから「ホールは小美玉の文化を育てる核となる」

２町１村の合併（2006 年）で生まれた小美玉市の３つの公共ホール（アピオス、みの～れ、コスモス）は、「第 1 次小美玉市まるごと文化ホール計画」（2012～2021 年）のもと、住民のみなさんを核とする熱いサポートに支えられながら、10 年間成長を続けました。まさに、「根を張ってこそ花が咲く」という理念が、着実に生かされ実践されてきたのです。

今日の社会の価値観は、日本の発展を支えてきた高度成長や高度消費の成熟に伴い、「モノ造り」から「コト育て」へと大きく変化しています。

このような「コト育て」事業の先駆的試みとして推進されてきた小美玉市まるごと文化ホール計画が 11 年目を迎えるにあたり、新たな 10 年計画が検討され、住民のプロジェクトチームが主体となって、ファシリテーター（市職員）、そして担当職員のみなさんの協働により立案されました。第 1 次の理念や方策を踏襲しつつ、理念（ミッション、ビジョン）、戦略、方策、活動計画について一つ一つ見直し、より具体的で推進力の高い計画となりました。そして、３つのホールがそれぞれに特長や個性を発揮しながら、密に連携しあって、小美玉市の文化を育てる核となることをめざしています。

小美玉市のホールには、県内外から多くの視察者が訪れています。それは、「ニューノーマル」とか「新しい日常」と呼ばれるような、これからの社会の“あるべき姿”を可視化してきたからでしょう。コミュニティの分断化が危惧される現代社会の中で、ホールは、住民のみなさんが集い活動し合う第３の場（サードプレイス）となっています。生きがいや地域の味わいを醸成していくためには、刻々と変化する生活環境や科学技術の進展などへの対応だけでなく、地域に潜む文化の力に着目し、それを継承し高め蓄積していく豊かな感性力が必要であり、それを育てる場が求められるのです。

多彩なシアター文化が息づく場としてのホールは、一朝一夕に造れるものではありません。これからも小美玉市のかけがえのない魅力・個性として、大事に育てていただきたいと心から祈念します。

コーディネーター　蓮見　孝　先生

博士（デザイン学）
筑波大学・札幌市立大学名誉教授
HAK ソシオデザイン研究室 室長

- 1948 年 神奈川県生まれ
- 1971 年 東京教育大学教育学部芸術学科卒
- 1971～1991 年 日産自動車（株）デザインセンター（第一モデル課長、エクステリアスタジオ代表チーフデザイナー等歴任／1976 年 ロイヤル・カレッジ・オブ・アート校社命留学）
- 1991～2012 年 筑波大学芸術学系（2000 年～教授）
- 2012～2018 年 札幌市立大学 理事長・学長
- 1995～2012 年 グッドデザイン賞審査員
- 2005～現在 いばらきデザインセレクション審査員
- 現：（公財）茨城県開発公社 理事、茨城県デザイン政策アドバイザー、東海旅客鉄道嘱託、他

資料編

小美玉市公共ホール運営委員会（第２次小美玉市まるごと文化ホール計画審議会）

2020～21 年度、氏名（敬称略）・所属

委　員　長	黒田　惇彦	小美玉市ボランティア連絡協議会会長
	石井　旭	小美玉市議会副議長
	枝見　太朗	四季文化館企画実行委員会委員長
	遠藤　雅樹	四季文化館企画実行委員会委員
	大塚　好蔵	小川文化センター活性化委員会委員長
	貝塚　勇	コスモスプロジェクト委員長
	片山　聡彦	小美玉市学校長会会長（2020 年度）
	稲田　雅志	小美玉市学校長会会長
	菊地　方美	コスモスプロジェクト副委員長
	木村　喜一	小美玉市議会文教福祉常任委員会委員長
	田村　智子	小川文化センター活性化委員会委員
	袴田　喜美子	小美玉市文化協会会長
	萩原　栄	小美玉市区長会副会長（2020 年度）
	長島　久雄	小美玉市区長会副会長

第２次小美玉市まるごと文化ホール計画策定プロジェクトチーム

氏名（敬称略）・所属

アピオスチーム	植田　健一郎	アピオスｅスポーツ実行委員会
	柴﨑　祐希	小川文化センター活性化委員会
	鈴木　睦美	小川文化センター活性化委員会
	栗原　憲子	アピオスぱるず
	仁平　要子	陽だまり広場実行委員会
	袴田　喜美子	まるごと実践チーム
	前島　京子	アピオスダンス実行委員会
みの～れチーム	池田　和弓	陽だまり横丁プロジェクト
	宇津野　絵美	「見つける・みがく・光を当てる」芸術展プロジェクトチーム
	小池　伸二	四季文化館企画実行委員会
	中村　顕人	四季文化館企画実行委員会
	藤田　佐知子	みの～れ支援隊
	古谷　行雄	まるごと実践チーム
	山本　貴美子	みの～れ支援隊
コスモスチーム	安部田奈緒美	笛の音楽隊ピッコロ
	内田　保	コスモスサポーター
	内山　えりか	コスモスプロジェクト
	大野　年江	絵本のかえっこ実行委員会
	大山　進	コスモスサポーター
	西條　友弥子	NPO 法人しみじみの村
	野手　利江	まるごと実践チーム
ファシリテーター	中本　正樹	市役所職員（アピオス担当）
	沼田　譲治	市役所職員（みの～れ担当）
	原田　啓司	市役所職員（コスモス担当）
コーディネーター	蓮見　孝	筑波大学・札幌市立大学名誉教授

事務局（2020～21 年度）

滑川　和明	文化スポーツ振興部長
林　美佐	生活文化課長
坂本　剛	生涯学習課長（2020 年度）
笹目　浩之	生涯学習課長
山口　茂徳	アピオス・みの～れ・コスモス館長
吉田　桂子	アピオス（2020 年度）
須賀田千恵子	アピオス
横山　雄一郎	アピオス
山口　高容	みの～れ（2020 年度）
柳原　一将	みの～れ（2020 年度）
高野　正人	みの～れ
根本　初江	コスモス（2020 年度）
狩谷　学	コスモス

計画策定経緯（会議開催状況）

※2021 年 11 月末現在。これ以降の会議については、製本時に追加して掲載する予定です。

2020 年

10 月 14 日(木)	**公共ホール運営委員会（審議会）①**	・諮問 ・計画の基本的な考え方の協議
10 月 23 日(金)	**プロジェクトチーム①**	・プロジェクトチームメンバー自己紹介 ・講義（コーディネーター　蓮見孝先生） ・グループ討議（館別３グループ） テーマ「今自分が文化ホールにどのように関わっているか。今後どう関わっていきたいか」
11 月３日(金)	**プロジェクトチーム②**	・講義（コーディネーター　蓮見先生） ・グループ討議（館別３グループ） テーマ「館（アピオス・みの～れ・コスモス）それぞれの個性について」①
12 月７日(月)	**プロジェクトチーム③**	・講義（文化庁派遣支援員・政策研究大学院大学教授　垣内恵美子先生） テーマ「地域の劇場―文化政策の視点から見る劇場・ポジショニングの変化と経営戦略」

2021 年

※１月 29 日(金)	**プロジェクトチーム**	※新型コロナウイルス流行に伴い中止
２月 16 日(火)	**公共ホール運営委員会②**	・経過報告
２月 26 日(金)	**プロジェクトチーム④**	（新型コロナウイルス流行に伴いオンライン開催） ・グループ討議「３館の個性」②
３月 17 日(水)	**プロジェクトチーム⑤**	・グループ討議「３館の個性」③
４月	**館グループ別討議**	・グループ（館）個別で討議実施、提言書作成
５月 14 日(金)	**プロジェクトチーム⑥**	・講義（コーディネーター　蓮見先生） ・「３館の個性」提言書討議
５月 18 日(火)	**公共ホール運営委員会③**	・経過報告

6月18日(金)	**プロジェクトチーム⑦**	・計画内容討議①「まるごと計画版ワールドカフェ」 ・戦略・方策（案）にもとづき４グループで討議
7月5日(月)	**プロジェクトチーム⑧**	・計画内容討議②「まるごと計画版ワールドカフェ」 ・４グループで方策（案）を討議
※8月6日(金)	**プロジェクトチーム**	※新型コロナウイルス流行に伴い中止
9月10日(金)	**プロジェクトチーム⑨**	（新型コロナウイルス流行に伴いオンライン開催） ・計画の全体構成（コーディネーター蓮見先生） ・活動計画（案）を討議①（館別３グループ）
10月8日(金)	**プロジェクトチーム⑩**	・活動計画（案）を討議②
11月5日(金)	**プロジェクトチーム⑪**	・計画書素案をもとに全体討議 （方策のキーワード、事例紹介、小美玉らしさ など）
11月19日(金)	**公共ホール運営委員会④**	・第２次計画案の内容説明 ・内容の協議・修正

※資料編として、製本時に下記項目の内容を追加して掲載する予定です。

第２次まるごと文化ホール計画策定プロジェクトチーム メンバーコメント

資料集

- 施設所在地・キャパシティ
- 自主・委員会事業数・内容
- 活動団体（グループ）一覧
- 活動グループ紹介
- アウトリーチの実績
- 施設改善の略年表
- 広報活動
- ホール稼働率
- ホール利用者・入館者数
- 委員会組織数
- 視察受け入れ一覧表
- 講演回数

- 用語集